

## 小さな動植物の飼育栽培活動を通して

大道 隆也

### 1 命を大切にしようとする心情を育みたい

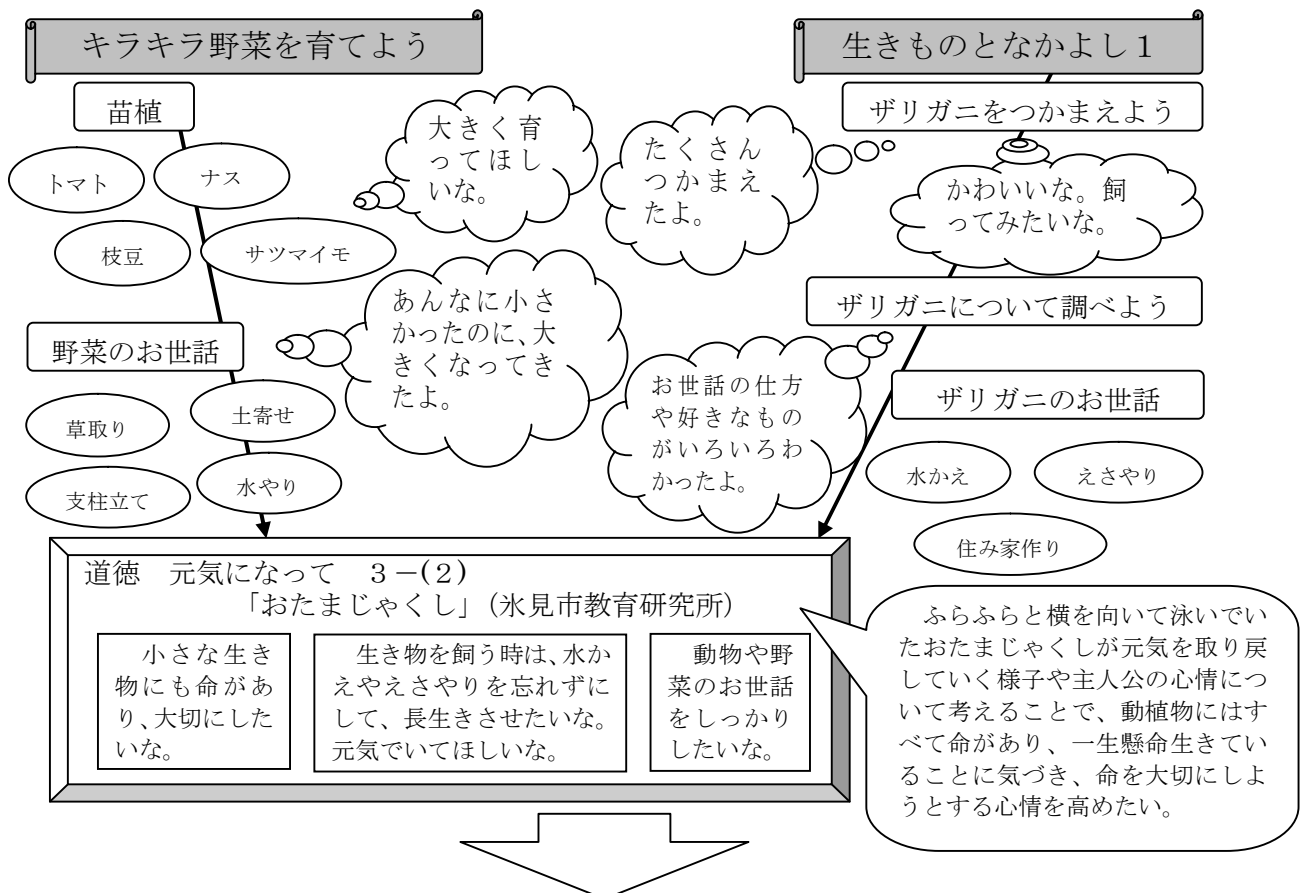
#### (1) 児童の実態と教師の願い

生命尊重は、人間のもっとも本質的な価値目標である。すべての道徳性は、生命が大切にされてはじめて成り立つ。自分の生命だけでなく、生命あるものすべてをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることを養うことが重要であると考え。子供たちの中には、動物は飼っているがあまり世話をしていない子供、動植物の飼育・栽培経験の乏しい子供や継続して世話をすることができない子供もおり、動植物にも大切な命があることをあまり意識していないように感じられた。そこで、生活科において身近な自然の中で遊んだり、動植物の飼育・栽培を経験したりし、自然や動植物などと直接触れ合うことを通して、命を大切にしようとする心情を育みたいと考えた。

### 2 体験活動を通して、命の大切さについて考える

#### (1) 生活科と道徳学習の関連（単元構想）

自然や動植物と直接かかわることを通して、命を大切にすることを育てていくことができるように、道徳の時間や生活科での飼育栽培活動との有機的な関連を図り、体験活動を充実させながら、道徳教育を進めた。



## 命を大切にしていきたい！

野菜の取り入れ



<サツマイモの収穫の様子>

### (2) 子供たちの命に対する意識の変化

がんばって成長したんだな。

大きなサツマイモがたくさん獲れたよ！

サツマイモ

トマト

枝豆

ナス

住み家を作ろう！



<ザリガニの住み家を作る様子>

長生きしてほしいな。がんばってお世話をするよ。

子供たちは、動植物に興味をもち、生き物と触れ合ったり、植物の世話をしたりする活動を好んで行っていた。毎日欠かさずに水やりを行い野菜の成長を楽しみにしたり、水かえやえさやりを進んで行い小動物をかわいがったりする姿が見られた。しかし、子供たちの中には、水やりやえさやりを忘れがちになったり、生き物に対して乱暴な扱いをしたりする子供の姿も見られた。

道徳資料「おたまじゃくし」の中で、主人公の心情について話し合うことで、主人公と自分とを重ね合わせて考え、すべての動植物には命があり、一生懸命生きていることに気づき、命を大切にしていきたいという思いを高めることができた。自分たちの生活を振り返り、「えさやりを忘れないようにしましょう」「今育てている野菜のお世話をがんばっていきたい」という思いをもつことができた。

道徳「おたまじゃくし」の実践後、野菜の取り入れでは、大きく育った野菜を手に取り、成長を肌で感じ、収穫を喜ぶ姿が見られた。ザリガニの飼育では、自分たちで石や瓦のかけらなどを集めて住み家を作ったり、こまめに水かえをしたり、率先してお世話に取り組む姿が見られた。

命の大切さを意識することで、動植物に対してより思いやりをもって接することができるようになったように感じた。

### 3 実践に生かしていく子供の育成に向けて

- ・ 動植物の飼育栽培体験を通して、小さな生き物や植物にも命があることを体感することができた。今後も、命の大切さを感じられるような場を意図的に設け、命あるものにやさしく接することができるようにしたい。
- ・ 自分たちのこれまでの経験と関連した道徳の資料を選択したことにより、主人公と自分とを重ね合わせて考え、命を大切にしたいという心情を高めることができた。今後も、道徳の時間と各教科との有機的な関連を図り、実践への意欲が高まるような指導過程を工夫したい。